



私立高校はどれくらいお金がかかるのか 2

羅針盤No.39で私立高校は年間100万円以上かかるとお知らせしました。

私立高校は「高い」というイメージがあると思います。しかし世帯の年収によっては、安く通える可能性があります。

①「高等学校等就学支援金制度」

これは平成26年より国の制度として行われているもので、世帯の年収により、国からの補助金が出る制度です。令和2年度より上限額と世帯の年収額の区分が変更されています。



世帯の年収としては、590万円以下の家庭には39万6000円の補助が出ます。また、910万円以下の場合は11万8800円の補助が出ます。この額がちょうど公立高校の授業料と同じ額なので、公立高校の授業料は年収910万円以下の世帯は無償となるのです。ただし、授業料だけなので制服代や教科書代などは必要となります。京都府では授業料は11万8800円なので、実質39万6000円までは使わないとなります。(この補助金は授業料にのみ適用されるので。)

②「京都府あんしん修学支援制度」

これは国の補助金だけでは足りない私立高校へ通う生徒に向けての補助金です。京都府にある私立高校で、京都府に本拠地のある高等学校に限られます。例えばクラーク記念国際高等学校は京都に学習室はありますが、本拠地は京都府外なのでこの制度は適用されません。

世帯の年収としては、590万円以下の家庭には国の支援金の39万6000円に京都府から補助が上乗せされて、65万円までの補助が出ます。生活保護世帯はさらに92万9000円まで上限で支給されます。また、910万円以下の場合は国の支援金の11万8800円に京都府から補助が上乗せされて、19万8800円の補助が出ます。これも授業料だけなので、制服代や教科書代などは必要となります。私立高校によって、この補助金で賄える範囲に違いがあるので、詳しくは各私立高校の個別相談などに世帯の収入などをお知らせすると個別に対応してくださり、具体的に3年間でどれくらいのお金が必要なのかも出してもらえます。先日配布した10月28日(土)の私立高校合同入試説明会に参加するのもお勧めします。

これら2つの支援制度は、国や京都府から直接各高校へ支給されます。申請の手続きについては、高校に入学してからになるので当面のお金については先に入金してもらう必要があります。

私立高校はお金がかかるということですが、私立高校では塾や予備校に行かなくてもいいようないろいろな取組があり、自習室や補習など放課後に取り組める高校もたくさんあります。公立高校へ行って放課後は塾へ通うことを思うと、どちらの方がお金がかからないか。保護者の方とそのあたりもふまえて話し合い、進路を決めていってほしいと思います。